



茨城ワイズメンズクラブ
2021年度-2022年度
1月報 Vo 1.161

強調月間テーマ

IBC / DBC

THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI CHARTERED 2006



国際会長主題.....「世界とともにワイズメン」
アジア太平洋地域会長主題.....「100年を越えて変革しよう」
東日本区理事主題....「私たちは次の世代のために何ができるか？」
関東東部部長方針「地域に世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワ」
茨城ワイズ会長主題.....「もう一度みんなで集う場所をつくろう」

<1月例会プログラム>

と き:2022年1月7日(金)
19:00~21:00(予定)

と ころ:筑波学園教会教育会館1F
zoomによるオンライン開催

司 会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:「いざ立て心熱くし」

(オンライン時はスキップ)

ワイズ信条:

(オンライン時はスキップ)

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとろう
- 1、会合には出席第一

社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・祈祷:熊谷 光彦

フリートーク:年末年始の報告、2022
年の計画案、その他

ハッピーバースデー&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

★巻頭言★「新年の思い」

茨城YMCA 総主事 宮田康男

2016年の9月に、創立10周年の茨城ワイズメンズクラブへの思いを巻頭言に述べた記憶があります。6年後の今、茨城クラブの例会には、なかなか参加できなくなりました。それはコロナのせいばかりではなく、私が高齢化したことや茨城YMCAの事業の拡大に伴って、ますます多忙になったこともあるのでしょうか。

茨城YMCAが現在のように発展することができたことについては前にも述べたことがありますが、稲本ワイズ(現・茨城YMCA代表理事)のご提案の「チャリティーゴルフ」、元・茨城ワイズの武林さんご提案の幼児向けプログラム「わんぱくクラブ」、そして金子ワイズにつくば市子ども課に取り継いで頂いて実現した「わいわい児童クラブ」が今、大盛況です。新たに「みどりのみらい児童クラブ」も誕生します。その他、様々な形で茨城YMCAとボランティアの青年達を支援してくださり、昨秋にはコロナ禍の中、新たに取得したみどりのセンターの敷地内で熊谷実行委員長のもと、2年ぶりのチャリティーランを実施でき、障がい児自立支援もどんどん盛んになっています。

しかし、その間にもチャーターメンバーの柴川ワイズ(元茨城YMCA代表理事)や井上ワイズが退会される等、速い月日の流れを感じておりますが、この流れを押し戻すことはおそらくできません。

また、コロナ後の社会の変化はどのようなものか、新たな社会的な課題は何か、私たちのサービスはどこに向かうのか、等々、私たちの前途を考えさせられます。

児童クラブやキャンプに参加していた小学生が高校生・大

☆今月の聖句☆

いかに幸いなことでしょう。まったき道を踏み、主の律法に歩む人は。

詩篇 119 篇 1 節

学生となり、ボランティアリーダーとして茨城YMCAに戻ってきて熱心にプログラムに関わってくれています。これらの青年たちの研修サポートも、茨城ワイズメンズクラブの重要な役割の一つです。

新年には、私もとうとう後期高齢者の仲間入りです。内向き、下向きになってしまいそうな今だからこそ、ポジティブに上を向いて歩きたい2022年です。謹賀新年。

【12月例会報告】

12月クリスマス例会は、3日金曜に実施いたしました。昨年のクリスマス例会もささやかにハイブリッド開催しましたが、今回は6名が集い、約2年ぶりのリアル開催となりました。久しぶりに顔を合わせ言葉を交わせたことに、一同感動を覚えました。食事をともにすることは叶いませんでしたが、ゲスト奏楽者の伴奏によりワイズソングを合唱し、ワイズ信条の唱和も久しぶりのものでした。そしてクリスマスの讃美歌を皆で歌うこともできました。

今月の聖句のコヘレトの手紙3：12-13を拝読し、クリスマスの聖書箇所としてマタイによる福音書1：18-25を拝読しました。

クリスマスメッセージのゲストとしてお招きした筑波学園教会の福島純雄牧師からは、次のようなメッセージをいただきました。



結婚前の乙女が身ごもるということは、あってはならない悪しきできごとだった。しかし神様は、そのできごとを福音としてくださった。私たちにおいてもどうしようもなく悲しい出来事が、わたしたちにしてみれば悪しき出来事がおきる。それを神様は、よきみちびきとしてくださる。

最近の教会でのできごとから。ある教会員の証し：子どもの頃、通っていた教会学校が終わってすぐ教会から飛び出した妹が車にひかれて亡くなった。ある教会員の子：大学進学に伴い都内の一人暮らしだった祖母の家から通学することに。ある日、家に帰ると祖母が風呂場でなくなっていた。それぞれの当事者家族にとっては、ほんとうにつらい出来事だったが、それでも神様はそれらさえもよいことへのみちびきとしてくださった。

リアル例会開催により、約2年ぶりにスマイルを行うことができました。

★熊谷：2年ぶりのチャリティーランを開催できたことと、今回小規模開催だったにもかかわらず多くの支援があったことに実行委員長として感謝。

★稲本：あいにくの雨の中チャリティーゴルフに多くの支援協力をしていただいたことと、チャリティーランで途中から歩こうと思ったのに全部走ってしまった自分の健康に感謝。また、先日茨城YMCAの赤い羽根募金に立った場所が孫（ひろくん）の心臓移植のための募金活動の最初の場所と同じだったことから当時を思い出し、改めて感謝。

★柳瀬：つれあいを無事に天に送ることができたことと、まさしくタイムリーな福島牧師のメッセージのはげましに感謝。

★大澤：例会のリアル開催と、みどりのみらい募金への皆さまからの支援に、そして昨年度まったく行えなかった野外・キャンプ開催を実感を持って準備できるようになってきたことに感謝。

人のふれあいと温もりを感じることでできたクリスマス例会となりました。

12月例会（ハイブリッド開催）出席状況
 会員：5名（稲本、大澤、金子、熊谷、柳瀬）、
 スタッフ：0名、リーダー：0名、ゲスト：2名
 （福島牧師、熊谷裕子）、出席総数：7名、在籍
 者会員数：9名、会員出席率：56%

（書記 村田）

【事務報告】

会計報告（12月3日～1月6日）

前月繰越金	¥4,455-
会費	¥30,000-
寄付・献金	▲¥1,000-
スマイル	¥4,000-
次月へ繰越	¥37,455-

ワイズメンのみなさまにおかれましては引き続き会費の前納に、ご協力を賜りたく願います。

（会計 柳瀬）

【茨城 YMCA 報告】

12 月の報告

- 1 日 リソースモビリティチームミーティング
- 2 日 中期計画小委員会
- 3 日 ホームページ委員会
- 4 日 小学生クリスマス祝会
冬キャンプ顔合わせ会
- 6~18 日 国際 week
- 6 日 早天祈祷会
- 6~8 日 スキーディレクタートレーニング
- 7 日 国際 MTG・中期計画小委員会
- 8 日 アフタースクールシェアミーティング
AFE 事例共有
- 9 日 主任会・東新井主任会
- 10~11 日 牛久センターお泊り会
- 10~12 日 北関東スキーリーダートレーニング
- 15 日 職員礼拝・職員会
- 17 日 東新井幼保オリーブクリスマス祝会
全国 YMCA 伴走 zoom 研修
- 18 日 障がい児者自立支援事業「たんぽぽクラブ」
日帰りスキーリーダートレーニング
国際協力街頭募金
次期総主事選考委員会・理事会
- 19 日 日帰りスキーリーダートレーニング
- 25~28 日 冬スキーキャンプ
- 27~28 日 家庭保育協力日
- 28 日~ 年末年始休館

1 月の予定

- ~3 日 年末年始休館
- 5 日 中期計画委員会
- 8 日 たかつえスキーリーダートレーニング
- 12 日 リソースモビリティチームミーティング
- 14 日 主任会
東新井主任会
- 14~16 日 はじめの一步スキーキャンプ
- 19 日 職員礼拝・職員会・幼児保育部会
- 22 日 障がい児者自立支援事業「たんぽぽクラブ」
- 23 日 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」
- 29 日 小学生デイキャンプクラブ「つくわいクラブ」

2 月の予定

5 日 全体職員会

(連絡主事 大澤)

【編集後記】

12 月、仕事をはじめとしていろんなことが忙しくなり、例会も欠席、ブリテンもスキマ時間を使ってなんとかギリギリで作成することができました。

年末が押し迫ってきて、Covid-19 の第 6 波が日本にもまた近づいてきています。一方で、既に感染者数がうなぎのぼりになっている海外各国は、この感染症を風邪のようなものと扱いはじめ、日常生活をむやみに止めなくなりました。そろそろ、発想の転換が迫られている時期なのかもしれません。

巻頭言で宮田さんも言及しておられましたが、ワイズの顔ぶれが変わり、また高齢化も進み、日本社会と歩調を同じくして厳しい時代が始まろうとしているのかもしれない。それでも、厳しさに直面しなければ、構造的な問題はなにも変わらないのだ、と信じて、厳しさを受け入れ、変革していかなければならないのかもしれない。

2022 年も、変わらぬお付き合いをよろしく願います。

(書記 村田)

「わたしが報復し、報いをする。彼らの足がよろめく時まで。彼らの災いの日は近い。彼らの終わりは速やかに来る(申命記 32 章 35 節)。」パウロは、新約聖書でその箇所を引用しています。「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復すると主は言われる』と書いてあります(ローマの信徒への手紙 12 章 19 節)」。昨年が無差別に人が襲われたという事件報道がまだ、強く記憶に残っています。被害にあった人々はもちろん加害者さえ、その行為によって何の幸いも得られません。ただただ多くの不幸のみが残ります。

さて新しい年はどのような年になるでしょうか。私はといえば、「門松は冥途の旅の一里・・・。」一休宗純のものとされるこの言葉を心に刻み淡々と歩みたいと思います。

(会長 熊谷)